

# 福山市老人大学 第48期 入学式 式辞

2018. 4. 5

春爛漫の本日、枝廣福山市長のご出席・小川市議会議長・小川市老連会長・池口元老大学長を始めとするご来賓・講師の先生方のご臨席を賜り、大勢の老大学生の出席をいただき、福山市老人大学第48期入学式が盛大に挙行できますこと 大変有難く嬉しく存じます。

今年度の学生数は、昨年度より11増の2,653人。  
男女比は、男子905・34.1%・女子1,748・65.9%。最高齢は男子95・女子96。  
90歳以上は、男子17・女子18・計35人です。  
平均年齢は、男子75.6・女子73.8。合同平均年齢は74.4。昨年度より0.3歳向上しています。

新規学生は、昨年度より7増の291人、全学生に占める割合は11%。  
80歳代の新規学生が、男子11・女子7人。最高齢は87歳。高齢になってからの入学者が増えています。  
なお、2教科受講363・3教科以上36を加えた延べ学生数は、3,052人です。

昨年度から大学運営の合言葉を老人大学の第一目的と老大学生の高齢化を受けて、「健康と安全が一番」とし、行事の実施方法などを改めてきています。  
8月・夏祭り二上りおどりは、健康に自信のある人を選出しての出場。10月・学生祭のテント設営は、自前からリースに、各係の担当時間を半減。  
11月・学級委員長旅行もゆとりある行先・日程に改めます。

今年度の本講座の改定は、

- 1 詩吟研究科を一クラス減。
- 2 短期講座のイキイキ体操と絵手紙を普通科に。
- 3 ソフト歌謡科を普通科・研究科同時新設。
- 4 スマホ科をパソコン科から分離・増設。
- 5 ハーモニカに研究科を増設。
- 6 仮名1組普通科を初級科「実用仮名」に改編、の6点です。

学生募集後の対応策は、

- 1 スマホ科の倍率2.6倍を受け、急遽2クラス増設。
- 2 イキイキ体操定員越えを受け、研究科を追加開設の2点です。

老大学の申し合わせでは「2年連続、定員の半数に満たない教科は廃止」となっていますが、普通科と研究科を合併させるなどして存続を検討します。

これからも今ある条件の枠内で、最大限、学習ニュースに伝えていきます。

なお、7月からの短期講座は、従来の古典文学・ボランティア・「ばらづくり」に加えて、スペイン語とデッサン科を開設予定です。

45年前・1973年の老人大学開学は、産業都市・福山の急速な発展と人口増加がもたらす将来の高齢化を見据えた画期的施策でありました。以来、老人大学は、福山市の発展とともにその伝統を築いています。

今年10月2日、創立45周年記念式典をリーデンローズ大ホールで開催し、在籍20年以上更に30年以上の学生・講師の表彰。音楽の大道芸人を標榜する20歳の若きピアニストのコンサートと記念誌の発刊を行ないます。

12月、県民文化センターを会場に、「カラオケの集い」を開催します。

最近、目に留まったシルバー川柳にこんなのがありました。

「老いた日々、こんなものかと老いて知る」。

私のような凡人は、想像力が乏しく、この年齢になって初めて分かることが多くあります。

「老いた日々、こんなものかと老いて知る」。

若き日の至らなさを恥じながら、歳を取るとは、どういうことか、どう生きるべきか、自問の続く日々であります。

先月、南こうせつのコンサートに行きました。69才になった彼の最近の歌に「緑の旅人」というのがありました。

若かったなあ40年前

ただガムシャラの怖いもの知らず

あいつもこいつも まっすぐで元気だった

何が幸せで 何が不幸なのか

高い塔の天辺に答えがあるのか

僕達は 向かい風に立つ 緑の旅人

あの夕日の荒野を 目指してゆく旅人

という歌詞が、心に響きました。

還暦はとうに過ぎ、古希も超え、6回目の年男を迎え、その生き方を模索する胸に、「向かい風に立つ」のフレーズが刺さりました。

超高齢社会が迫りくる中で、健康長寿は、高齢者にとっていや我が国にとって最重要課題です。福山市民の健康長寿に貢献する老人大学は、全国に誇りうる存在です。

その誇りと伝統を持つ大学の学長職を「向かい風に立つ」心意気で務めることを申し述べ、式辞といたします。

2018年（平成30年）4月5日

福山市老人大学 学長 高橋 和男